

平成9年度は財政構造改革元年

行政の簡素化と効率化、経費の節減と合理化を進めます。

市長の施政方針

私は、市長の職に就任して以来、市議会をはじめ、市民の皆様のご理解とご協力のもと、市民の福祉の向上と日光市の活性化を最大の目標にして、自然と市民生活とが調和するまちづくりを推し進めるため、精一杯の努力をしてまいりました。私は今後とも、思いやりのある、心の通いあう行政を推し進め、祖先が大切に育て培ってきたこの「日光」を、二一世紀の明日に引き継ぐべく、努力する覚悟です。皆様の深いご理解と積極的なご支援を、心からお願ひ申し上げます。

それでは、平成九年度の予算編成に関する基本的な考え方についてご説明いたします。

我が国は、社会の高齢化や情報化、そして国際化に直面するとともに、バブル崩壊後の長引く景気の低迷、更には膨大な国債残高を抱えて、財政構造の硬直化が懸念されるなど極めて厳しい状況が続いています。このため、平成九年度を財政構造改革元年と位置づけ、財政の健全化に向けて国と地方とが一体となり、目的の達成に向けてなお一層強く取り組んでいくことが、早急に必要となっております。この様な状況のもと、平成九年度の日光市の財政運営は、市税や地方交付税等の経常的な一般財源に大幅な増収が期待できないなど、一層厳しい局面を迎えるであろうと予想されます。

従いまして、今後の経済動向その他諸々の状況を的確に把握し、行政の簡素化、効率化をより一層進めます。同時に、施策の優先順位の厳しい選択を行うなど、経費の節減と合理化に取り組みながら、皆さんの付託に応えるべく、市民福祉の着実な向上を図り、日光市の将来を見据え、住みやすく魅力あるまちづくりを積極的に推し進めます。

平成九年度の予算額は、一般会計総額九〇億五〇〇〇万円、前年度の当初予算と比較して、五・三八%の減となります。それに特別会計五会計の総額、四四億九六七三万円を合算した額は、一三五億四六七三万円となり、前年度と比較して二・九六%の減となります。

平成九年度の予算は、前年に比較して緊縮型の予算編成となりました。歳入面では将来の負担を考慮し、市債を大幅に減額するとともに、市税や地方交付税等は、現時点で見込み得る額を計上しました。国や県からの補助金、あるいは使用料についても積極的に歳入

を増やすよう努めました。さらに、財政調整基金、減債基金、ふるさと活性化基金等についても、適切な活用を図りました。

歳出面に関しては、各種施策の優先順位について厳しい選択を行うとともに、日光市振興計画に盛り込まれた諸政策の着実な推進を図りながら、市民の行政ニーズに応えるべく、投資的経費に対して重点かつ効率的に財源を配分しました。同時に、経常的経費については可能な限り、節減と合理化に努めました。

以上、予算編成に際しての基本的な方針をご説明させていただきました。

それでは次に、平成九年度の主な事業についてご説明いたします。

●生活環境づくり

市民の生活に直結した生活環境を整備するため、奥日光活性化事業に関連した道路の改良をはじめ、生活路線である市道の改良や舗装工事の事業を大幅に増額しました。同時に、所野広久保団地の建替にとりまわす園地の整備、花石町・久次良町を中心とした下水道整備、中宮祠・湯元処理場の更新事業、小来川簡易水道の整備事業を継続して実施します。また、防火施設、消防団の機械器具・詰所など、防災体制の面でも計画的に整備を進めます。さらに、前年度から調査をしてきました身近な街づくり支援事業である街路整備事業およびウォーキングトレイル事業については、県が進めています旧田母沢御用邸整備事業との整合性を図りながら工事を実施し、西町地区の環境整備を進めます。また、新たに細尾地区のテレビ難視聴対策事業も行います。

その他、資源ゴミの分別収集事業、日光都市基本計画策定委託事業、生活路線バス運行対策事業を引き続いて実施します。清滝地区の土地区画整理事業についても地元住民との話し合いを引き続き行ってまいります。

●福祉社会づくり

長寿社会の高齢化対策として、デイサービス事業を推し進めるとともに、新たに高齢者デイホーム事業として宅老所を開設します。また、生きがい促進の拠点となるシルバー人材センターを建設するほか、重度障害者介護手当給付費、寝たきり老人および痴呆性老人介護手当を各々増額し、介護をしている皆さんへの支援強化を図ります。